

土木の原点を見つめ 市民工学への回帰を

第99代土木学会会長

山本 卓朗



国難とも言うべき巨大災害にみまわれ、総力を挙げて復興に取り組んでいるときに、土木学会の第99代会長を仰せつかり、その責任の重大さをあらためて感じている。亡くなられた多数の方々のご冥福をお祈り申し上げ、土木学会が全力で復興支援に取り組むことをお誓いするものである。

われわれは長年にわたり国土づくりに努力してきたことを自負しているが、いつしか社会資本整備や公共事業に対する市民の感覚から「ずれ」が生じ、土木に対する不信感をなかなか払拭できないという厳しい現実がある。「土木の市民工学への原点復帰」、「土木改革」を必要とする所以^{ゆえん}である。

わが国がこの大震災から力強く立ち直るために、真に必要な社会資本整備や国土防災そして社会の安全システム構築などに、土

木技術者の果たすべき役割はますます重要なものとなるであろう。しかしその活動を素直に理解していただくためにも、産学官のソサエティーである土木学会が中心となり、積極的に自らの改革を進めなければならぬ。

土木学会は、4月1日より新制度による「公益社団法人」として活動を開始した。「土木」がその営みを通じて、公益の増進を図るために不断の努力を続けるという使命はまことに重大である。

時あたかも2014年の土木学会100周年を目指した継続的な記念事業活動が本格化する。「土木の原点」を考え「真に求められる日本の土木は何か」を追求する絶好の機会ととらえ、公益社団法人としての使命を果たしていきたい。